

平成27年3月27日

各位

三菱UFJ信託銀行株式会社

大規模太陽光発電プロジェクト「大阪ひかりの森」への出資・参画について

～再生可能エネルギーファンド設定に向けた取り組みについて～

三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長 若林 辰雄）は、この度、三井住友ファイナンス&リース株式会社とサミットエナジー株式会社（住友商事株式会社 100%出資の新電力）が実施主体となり大阪市此花区夢洲で運営する大規模太陽光発電所を中心とする環境貢献事業（「大阪ひかりの森」プロジェクト）に出資・参画いたしました。

本参画は、「大阪ひかりの森」の趣旨に賛同した当社が、将来のインフラセットマネジメント業務への参入、及び、年金基金等の機関投資家の安定運用ニーズに合った「再生可能エネルギー投資ファンド」（総額100億円規模を目標）の提供を目的とした投資の一環であり、3月2日に公表した宮崎県の太陽光発電サイトに続く2件目の出資実行になります。

1. 出資対象案件の概要について

「大阪ひかりの森」とは、大阪市此花区夢洲の北港処分地における官民協働の企業参加型メガソーラー事業プロジェクトです。本プロジェクトは『人々が1本ずつ木を植えて森をつくるように、さまざまな企業が協働で“ひかりの森”を創る』というコンセプトに賛同する複数の企業によって、埋め立て処分場である夢洲を再生可能エネルギー発電拠点として活用するものです。

当社は、「複数の企業が共同でメガソーラー事業を行う」ことを通じ、地域の循環型社会実現・環境教育の推進・研究産業振興に貢献するという本プロジェクトの趣旨に賛同し、今般、プロジェクト全発電容量（10メガワット）の50%に相当する設備持分への出資参画を行いました。

2. 信託を活用した出資スキームについて

「大阪ひかりの森」プロジェクトは、参加企業と三井住友ファイナンス&リースとの間のリース契約とサミットエナジーとの間の運用業務委託契約に基づいて運営されています。

今般、当社が長年培ってきた資産流動化ノウハウを活用し、リース形態で運営される太陽光発電サイトへ出資参画する設備持分を信託受益権化することにより、将来的には年金基金等の機関投資家も出資が可能となります。

具体的には、当社が匿名組合出資を実行し、合同会社ジーアイアイが、当該出資金を原資として、AMPキャピタル・インベスターズの日本法人から投資助言を受けて「大阪ひかりの森」のリース設備持分を裏付資産とする信託受益権を取得することを通じて資金供給を行います（詳細は裏面スキーム図をご参照ください）。

三菱UFJ信託銀行は、「再生可能エネルギー導入促進により地球環境保全に貢献したい」という高い環境意識を持つ機関投資家から投資需要を集め、間接的に「大阪ひかりの森」のプロジェクト運営に多数の機関投資家が資金を提供可能なスキームの構築を目指します。

今後もお客さまの多様なニーズに対し、信託銀行ならではの高い専門性でお応えしてまいります。

以上

ご注意：この文章は、再生可能エネルギー投資を見据えた弊社の合同会社への出資に関して、一般に公表するための発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

【別紙】

＜ご参考＞「大阪ひかりの森プロジェクト」の概要

メガソーラー設置場所	大阪市此花区夢洲1区の廃棄物埋め立て処分場の内の約15ヘクタール
発電規模	10メガワット ※標準的な家庭の電力消費量の約3,200世帯分に相当
運営組織	プロジェクト企画：住友商事株式会社 資産保有者：三井住友ファイナンス&リース株式会社 管理運用受託者：サミットエナジー株式会社
ウェブサイト	http://www.osaka-hikarinomori.jp/

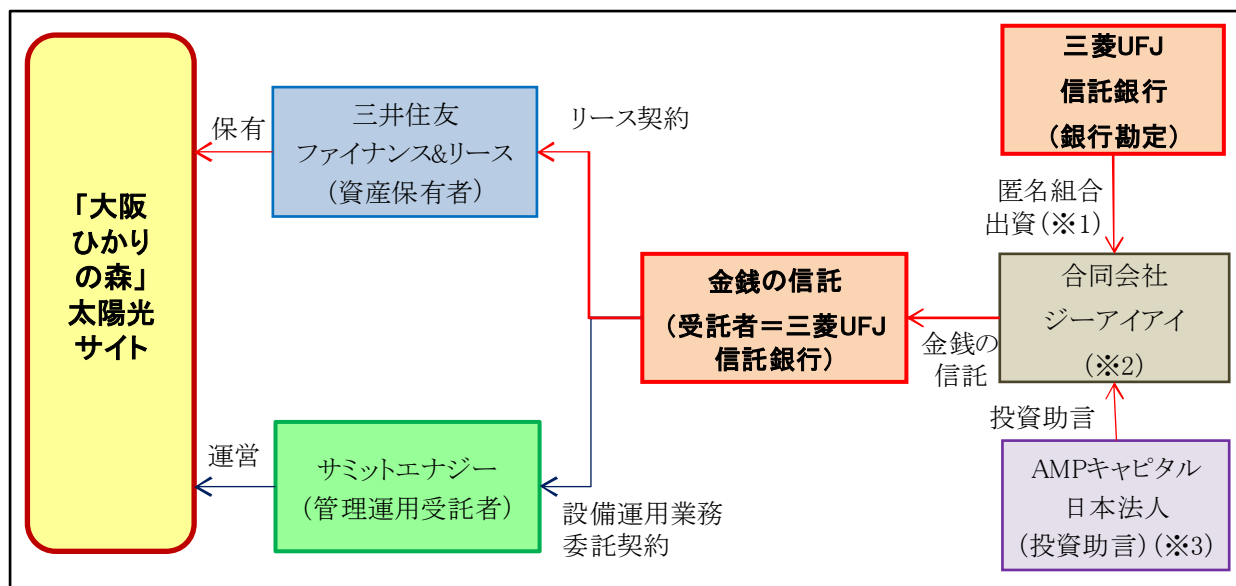
(現場写真)



(所在地)



＜三菱UFJ信託銀行による出資スキーム＞



※1: 「匿名組合出資」は、投資先の事業運営に関する議決権のないエクイティ出資形態です。

※2: 「ジーアイアイ」(GII)は、「Green Infrastructure Investment」の略称です。

※3: AMPキャピタル・インベスターズは、三菱UFJ信託銀行の持分法適用会社である豪州AMP Capital Holdings傘下の資産運用会社であり、再生可能エネルギーを含むエネルギーセクターなど、グローバルの幅広い分野において25年超のインフラ投資実績を持ちます。